

令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 一般社団法人滝川国際交流協会（都道府県：北海道）

1.当該地域の情報（令和5年2月現在）

地域の課題	滝川市は、これまで国際交流活動に熱心に取り組み、JICAやCLAIRなどと連携して研修員の受け入れをするなど、国際協力の分野でも実績を積み、研修員と市民との交流など幅広い活動を行ってきた。また、グローバル化する社会に対応する人材育成に取り組んでおり、外国語指導助手を7名配置するなど、市内の各学校では英語教育が充実している。滝川市内に居住する外国人数は約100名で、永住者や就労により来日した方が大半を占めている。就労目的で居住している方のうち、外国語指導助手や国際交流員は地域住民との交流機会も多く日本語の習得は比較的早い。一方で滝川市内の企業等で技能実習生を受け入れるケースが増えつつあるが、実習先での業務と技能実習生間での生活時間が多く日本語習得の機会が限られており、地域住民との交流も極めて稀である。また雇用側の外国人就労者（技能実習生等）に対する生活者としての支援への理解度にも差がある。 人口減少と労働力不足は今後も続き、将来的には、現在の技能実習制度の活用及び長期就労者への移行、地域への外国人の定着を図る必要がある。そのためには、日本語教育や地域との交流による多文化共生社会を目指した取組が今後の地域の課題となる。さらに、外国人による地域参加の場を作ることや地域住民を巻き込んだコミュニティづくりを進める必要がある。
在住外国人数 外国人比率	【人口】37,999人 【在留外国人】106人 【外国人比率】0.3%
在住外国人の 状況	【主な国籍と人数】 韓国20名 ベトナム19名 フィリピン17名 ネパール10名 モンゴル8名 米国7名 インドネシア5名 ミャンマー4名 中国3名 朝鮮・タイ・ウズベキスタン2名 【在留資格】 技能実習生24名 特別永住者18名 永住者16名 教育11名 特定技能9名 家族滞在8名 技術・人文知識・国際業務5名 【滞在年数・在留期間などの状況】 身分にもとづく在留資格者はほぼ変化が見られない。技能実習生等は一時期減少したが少しずつ増加傾向にある（技能実習1号20名）。またベトナム中心から多国籍に変化している。
在住外国人の 日本語教育の現状	2009年（平成21年）度、文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業に応募し、日本語教育事業のひとつである日本語教室の設置運営を受託した。この事業により、近隣在住の外国語指導助手を主な対象とする「生活日本語教室」と中国人就労者を対象とする「日本語教室」の2クラスを実施し、日本語教育のほか、茶道・華道・着物着付けなどの文化体験も取り入れて実施した。翌年以降は、予算面の裏付けが確保できなかったため、ボランティア活動の一環として日常生活するうえでの必要度合いに応じて個別に対応してきた。 2021年度に本事業を受託し地域の現状分析を実施、「やさしい日本語教室」を開催した。今年度は在留外国人対象の「日本語教室」を試行的に開催している。

2.事業の内容

本プログラム取組年数	2年目
事業の目的	滝川市は世界に誇れる「国際田園都市」構想をもち、地域資源や魅力を磨き、海外からの交流人口を増やし、にぎわいのある街づくりを目指している。当協会ではこれまでも様々な地域事業を実施して多文化交流を図ってきたが、一昨年度「多文化共生社会に向けたシンポジウム」を開催したことにより、滝川市における技能実習生の状況の一端を知る機会があり、言葉の壁によるコミュニケーション不足解消の重要性を改めて感じた。現在、人口に対する在留外国人比率は決して高くはないが、居住している外国人の実態把握が不十分であることや今後技能実習生の受け入れを前向きにとらえている企業が増加傾向にあることから、在留外国人（技能実習生含む）などの実態把握に努め、「日本語教育」を足がかりとして、在留外国人による地域参加の場を作り、住民を巻き込んだ地域コミュニティづくりの推進を目的とする。

事業の概要	1 「たきかわにほんごひろば」(日本語教室)の試行的実施【日本語を学ぶ場】 ・8月から2月まで月1回程度開催。(6回実施) 2 「たきかわにほんごひろば(交流)」(日本語教室)の試行的実施【日本語を使う場】 ・日本語をキーワードとした在留外国人と地域住民との多文化共生に向けた交流活動を開催。(4回実施) 3 サポーター養成【人材育成】 ・日本語教室や交流活動を支える人の輪を広げることを目標に開催。(4回実施) 4 3年目に向けた体制づくり ・日本語教育のカリキュラムづくりや教室のあり方を検討し、滝川市との連携を図った。 5 広報活動 ・実施プログラムの周知や活動状況についての情報発信に努めた。			
事業の対象期間	令和4年4月～令和5年3月			
前年度の実績 (2年目以降の団体のみ記載)	・アドバイザーの派遣(ほぼオンライン会議の開催)を得て、滝川市内における在留外国人の実態調査及び関係先への聞き取り調査を実施した。この事業を通して外国人の実態について一定の理解が深まり、関係者を対象に実態調査報告会を開催した。 ・日本語教室の開催を見据え、サポーターの掘り起こしも含めて「やさしい日本語教室」を開催した。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	阿部 孝志	滝川国際交流協会	参与	教室の企画運営・関係機関との連携
	森田 詠美	滝川国際交流協会	事務局長	関係機関との連携・広報活動・教室運営
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	山田 泉	元法政大学	教授	継続(2年目)
	松岡 洋子	岩手大学	教授	継続(2年目)
	菊池 哲佳	(一社)多文化社会 専門職機構	多文化社会コーディネーター	継続(2年目)

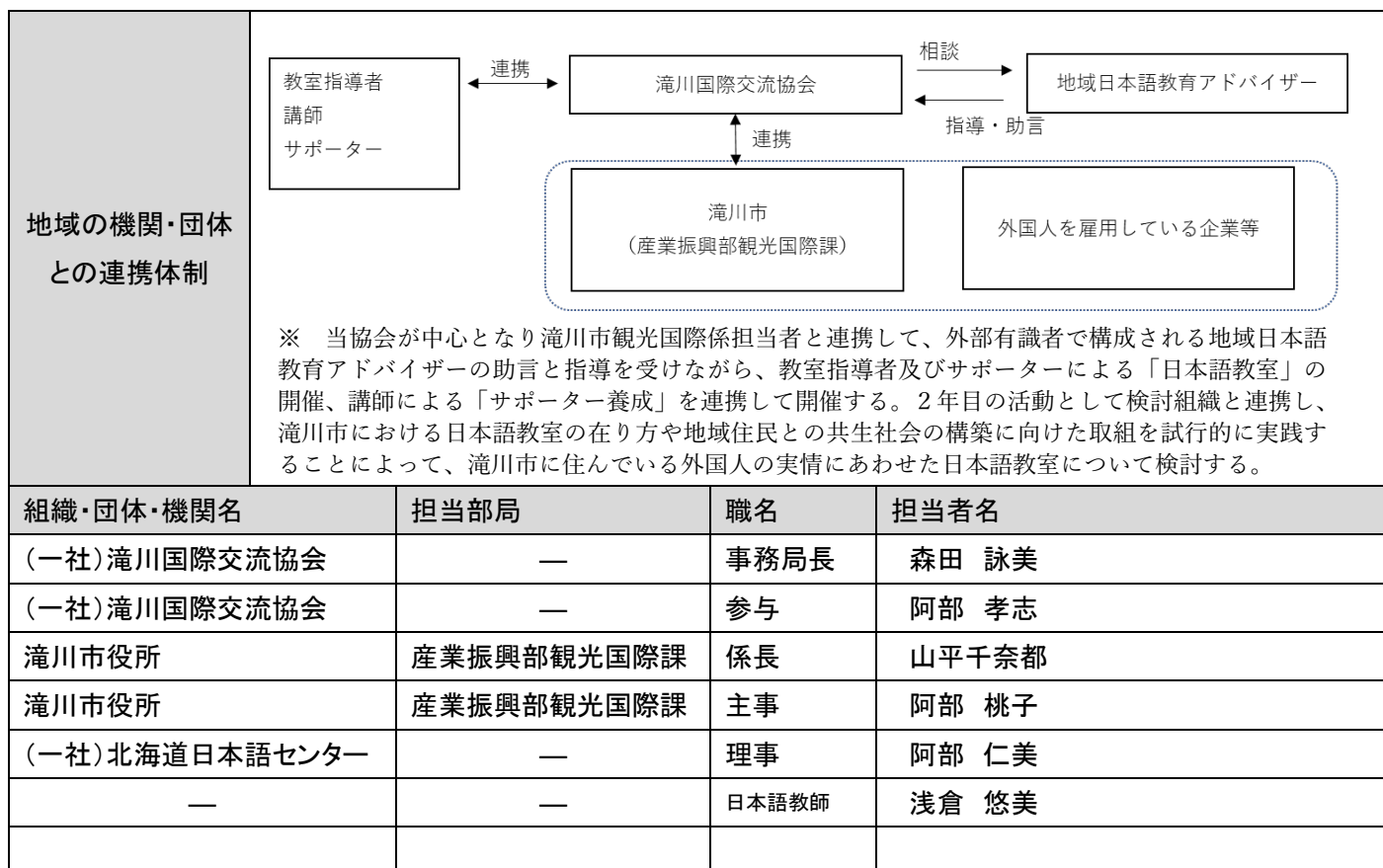
3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	教室指導者 講師 滝川国際交流協会 地域日本語教育アドバイザー 滝川市 (産業振興部観光国際係) 日本国際協力センター北海道支所 北海道日本語センター ※ 当協会が中心となり滝川市観光国際係担当者と連携して、外部有識者で構成される地域日本語教育アドバイザーの助言と指導を受けながら、検討組織において教室指導者や講師と連携し、滝川市における日本語教室の在り方や地域住民との共生社会の構築に向けた全体計画を設計する。	
所属(担当課)	職名	担当者名
(一社)滝川国際交流協会	事務局長	森田 詠美
(一社)滝川国際交流協会	参与	阿部 孝志
滝川市役所 産業振興部観光国際課	係長	山平千奈都
滝川市役所 産業振興部観光国際課	主事	阿部 桃子
滝川建設協会	会長	田端 千裕

(一財)日本国際協力センター北海道支所	支所長	青木麻由美
(一社)北海道日本語センター	理事	阿部 仁美
北海道大学	研究員	式部 絢子
-	日本語教師	浅倉 悠美

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和4年 4月			
令和4年 5月	・サポーター募集 ・関係機関との調整(行政) ・指導者・講師依頼 ・全体計画作成	・交流サポーター確保 ・実施体制検討 ・今年度の取り組み内容検討	
令和4年 6月	・事業オリエンテーション ・事業計画書作成 ・指導者・講師打合せ ・協会広報誌による事業紹介	・会議参加 ・事業内容検討 ・実施体制検討 ・関係機関との連携・調整	(メール報告・助言)
令和4年 7月	・キックオフ会議 ・日本語教室サポーター説明会 ・事業計画書提出 ・企業等訪問活動 ・サポーター養成講座① ・滝川市広報誌による事業紹介	・アドバイザー連携 ・実施体制検討 ・サポーター確保・育成 ・企業ヒアリング ・サポーター養成講座運営	★(オンライン) 今年度の事業計画への指導・助言

令和4年 8月	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」① ・サポーター養成講座② ・日本語教室「たきかわにほんごひろば(交流)」①	・日本語教室運営 ・サポーター養成講座運営 ・在住外国人への参加依頼	(メール報告・助言)
令和4年 9月	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」② ・サポーター養成講座③ ・他団体視察 ・協会広報誌による事業紹介	・日本語教室運営 ・サポーター養成講座運営 ・日本語教室の企画・運営検討	(メール報告・助言)
令和4年 10月	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」③ ・第2回アドバイザー会議 ・実施団体情報交換会 ・日本語教室「たきかわにほんごひろば(交流)」②	・日本語教室運営 ・アドバイザー連携 ・在住外国人への参加依頼	★日本語教室の視察、活動状況の報告及び今後の活動予定への指導・助言
令和4年 11月	・北海道地域日本語教育研究会参加 ・日本語教室「たきかわにほんごひろば」④ ・国際化講演会の開催	・日本語教室運営 ・国際化講演会の周知と関係先への参加依頼 ・企業ヒアリング	(メール報告・助言)
令和4年 12月	・地域日本語教室空白地域解消セミナー ・北海道国際交流フェスタに出展 ・日本語教室「たきかわにほんごひろば(交流)」③ ・企業訪問活動 ・協会広報誌による事業紹介	・日本語教室運営 ・国際交流フェスタでの周知 ・在住外国人への参加依頼 ・企業ヒアリング	(メール報告・助言)
令和5年 1月	・北海道地域日本語教育シンポジウム参加 ・日本語教室「たきかわにほんごひろば」⑤ ・企業訪問活動 ・他団体視察	・日本語教室運営 ・企業ヒアリング ・日本語教室の企画・運営検討 ・他団体視察準備	(メール報告・助言)
令和5年 2月	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」⑥ ・令和5年度事業計画申請 ・サポーター養成講座④ ・日本語教室「たきかわにほんごひろば(交流)」④ ・第3回アドバイザー会議	・日本語教室運営 ・事業計画書の検討・作成 ・サポーター養成講座運営 ・在住外国人への参加依頼 ・アドバイザー連携	★(オンライン) 今年度の事業報告及び来年度の事業の方向性について指導・助言 日本語教育の現状についての情報提供
令和5年 3月	・事業終了報告書の提出 ・企業訪問活動 ・協会広報誌による事業紹介	・事業報告書の検討・作成 ・企業ヒアリング	(メール報告・助言)

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	「たきかわにほんごひろば」						
外国人参加者について	[国籍]ベトナム 11 名、アメリカ8名、モンゴル8名、ウズベキスタン2名、フィリピン2名、シンガポール 1 名、カナダ1名 [属性]技能実習生や家族滞在、外国語指導助手等が主な対象						
参加者数 (内 外国人数)	受講者78名 支援者114名（日本語教師、コーディネーター除く） （日本語指導者0名、サポーター14名）						
開催時間数	総時間 24 時間			内訳 2 時間 × 6 回 3 時間 × 4 回			
目標	・テーマを設定して、会話を通して日本語の力をつける「対話型日本語教室」を開催する。 ・日本語を使いながら交流し、地域の文化等にふれ地域行事等に参加することにより地域での帰属意識を育む。						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講	内容	授業概要	支援者数

				者数			
1	2022 年 8月7日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	11	オリエンテーション わたしの生活マップ	・年間スケジュール ・自己紹介 ・受講者自身の生活エリアをイメージして紙に書きだした。	日本語指導者1名 コーディネーター2名 サポーター7名
2	2022 年 8月28日(日) 13:00～16:00	3	たきかわ 観 光 国際 スク エア・パーク ゴルフ場	13	パークゴルフ交流	・ルール説明 ・日本語を使いながら、北海道 発祥のスポーツを通して交流し た。	日本語指導者1名 コーディネーター2名 サポーター10 名(4 名)
3	2022 年 9月4日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	8	夏について	・アイスブレイク ・日本の夏、受講生の国の夏、 夏の思い出などを話題として取 り上げた。	日本語指導者1名 コーディネーター2名 サポーター3名
4	2022 年 10月2日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	5	生活のルール 冬に向けて	・アイスブレイク ・交通ルールとゴミ出しのルール を確認した。 ・冬に向けて準備することを話題 として取り上げた。	日本語教師1名 コーディネーター2名 サポーター7名
5	2022 年 10月30日(日) 13:00～16:00	3	地域ふれあ いセンター	15	やさしい日本語で 交流	・世界の遊びや日本の遊びを通 して日本語を学びながら交流し た。 ・自己紹介しながら名刺交換す るゲームを取り入れた。	日本語指導者1名 コーディネーター2名 サポーター11名(3 名) 一般市民 16 名 (見学者3名)
6	2022 年 11月20日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	4	健康について	・アイスブレイク ・健康について話題として取り上 げた。風邪をひいた時の対処法 について、それぞれ発表した。	日本語教師1名 コーディネーター2名 サポーター7名 (見学者2名)
7	2022 年 12月18日(日) 13:00～16:00	3	たきかわ 観 光 国際 スク エア他	10	たきかわ発見バス ツアー	・江部乙神社、道の駅「たきか わ」、滝川市役所、滝川市図書 館の説明や見学を通して、地域 を学んだ。	日本語指導者1名 コーディネーター2名 サポーター11 名(3 名) 一般市民7名
8	2023 年 1月15日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	2	お正月について	・アイスブレイク ・日本のお正月について話題と して取り上げた。福笑いやたき かわカルタを実施した。	日本語教師1名 コーディネーター2名 サポーター6名 (見学者2名)
9	2023 年 2 月 6 日 2月5日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	2	たきかわにほんご ひろばの思い出	・アイスブレイク ・1年のまとめとして、参加した 感想を発表した。	日本語教師1名 コーディネーター2名 サポーター6名 (見学者2名)
10	2023 年 2月12日(日) 13:00～16:00	3	まちづくりセ ンター「みん くる」	8	紙袋ランタン制 作作成交流	・紙袋によるランタン制作を通 して交流した。完成した作品は 地域イベント(たきかわ紙袋ラン タンフェスティバル)に展示し た。	日本語教師1名 コーディネーター1名 サポーター12 名(4 名) 一般市民2名

【主な活動】



「パークゴルフ」を体験しながら交流
している様子



9/4
今年の夏の出来事について話し合っ
ている様子



10/2
交通安全ルールを確認した時の
シート



10/30 やさしい日本語で交流
「たきかわカルタ」に参加している様子



12/18 たきかわ発見バスツアー
江部乙神社の社殿で、神社の由来を聞いている様子



1/15
日本のお正月をテーマにして、福笑いにチャレンジしている様子

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	【課題】・受講生の実態に応じた日本語教室の設置 ・日本語教室を安定的に運営するための活動資金の調達 【対応策】・ニーズ調査や生活 Can-do の活用による実態把握による学習機会の検討 ・「生活者としての外国人」への日本語教育に対する施策の理解
--------------------	--

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
サポーター養成講座	2022 年7月～2023 年2月(全4回)	「たきかわにほんごひろば」の指導者をサポートして「やさしい日本語」で受講生と対応できる人材育成として講座を開催した。 【内容】全4回、1回3時間(4回目のみ2時間) 第1回 地域の外国人の現状・地域における日本語教室の目的と支援者の役割・外国人とのコミュニケーションのための「やさしい日本語」 第2回 日本語教育の基礎知識・外国人にわかりやすい「やさしい日本語」 第3回 日本語学習支援教室での学び方・「たきかわにほんごひろば」の展開に向けて 第4回 「たきかわにほんごひろば」のふりかえり・学習支援者としての心構え
国際化講演会	2022 年 11 月 22 日(火) 18:00～19:30	講演題「多文化共生の視点に立ったまちづくりと地域防災」 講師：地域日本語教育アドバイザー 菊池 哲佳 氏 地域に住む外国人・日本人の関係性から多文化共生に向けたまちづくり・地域づくりにむけたきっかけづくりについて、東日本大震災時の取り組みを通して、多言語化・やさしい日本語での対応を参考に学んだ。短大生など若い世代の参加があった。(参加者32名)
北海道地域日本語教育研究会等への参加	2022 年 11 月 11 日(金)15:00～17:30 2023 年1月 21 日(土)13:00～16:30	・研究会において、北海道内で文化庁事業を実施している4団体が一堂に会し、事業紹介プレゼンテーションなどを通して交流を行った。 ・オンラインで開催されたシンポジウムにおいて、パネリストとして参加した。
滝川市との連携	2022 年 7 月～2023 年3月(随時)	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」の開催にあたり、必要に応じて担当者と情報共有、意見交換を行った。

【主な活動】



8/27 サポーター養成講座
「たきかわにほんごひろば」の授業展開を考察している様子



11/22 国際化講演会
参加者の様子



11/22 国際化講演会

5. 今年度事業全体について

進捗状況	概ね計画通りに遂行できた。
事業推進にあたり問題点と対応策	・昨年度はアドバイザー派遣団体だったため、今年度試行的な開催となった。実施回数が限られたため、次年度は実施回数増に努め、講座の内容も工夫改善を継続的にを行い、受講生の実態に応じた内容となるよう努める。 ・コロナ感染対策を取りながらの実施となったが、技能実習生等の職種によっては参加が難しい状況があった。今後のコロナ対応の動向を踏まえながら、オンライン等、必要に応じて多様な実施方法を検討する。 ・冬場の受講生減が課題となるため、早い時期からの開催を検討する。
成果	・日本語を学ぶ場としての「たきかわにほんごひろば」、日本語を実践する場としての交流や多文化共生を意識した「たきかわにほんごひろば(交流)」を開催した。 ・日本語教室を通して地域に住む外国人との接点が増え、相互理解を深めることができた。回数を重ねるごとに、心を通わせることができるようになってきた。 ・日本語教室の人材育成・確保の観点から、サポート養成講座を開催し、サポーターの資質向上を図ることができた。少しずつではあるが、理解者や応援者が増える状況をつくることができ始めた。
地域の関係者との連携による効果	・知りえた情報をもとに企業訪問等を実施することにより、顔が見える関係性ができ始めている。 ・継続して「日本語教室」を開催することにより、技能実習生が新規に雇用される時に情報をいただけることがあった。 ・情報発信を通して、広く市民に活動を知ってもらうことができた。
コーディネーターの主な活動	① ニーズの調査(20H) ② 体制整備のための調整(98H) ③ 人材育成のための調整(38H) ④ 日本語教室開設及び運営のための調整(80H) ⑤ 教材作成に向けた調整(10H) ⑥ その他(38H) (具体的な内容:他団体視察等25H・北海道地域日本語教育研究会等参加13H)
アドバイザーの主な助言	・活動の方向性は良い。文化庁の Can-do は行動目標を達成すること、言語能力と行動能力は1対1ではない。様々な活動を経験して行動能力を身に付けさせることも日本語教室の運営の方法として考えたらどうか。 ・日本で外国人を受け入れているので、学びを保証する必要がある。プロの日本語教師が担う部分と地域などのコミュニティでできる事は分けて考える必要がある。滝川での環境や資源を活用してできる範囲を想定して進めるのでかまわない。 ・生活 Can-do の到達目標を滝川バージョンとして作成し、サポーターやファシリテーターがイメージしながら日本語教室で使うことによって、受講生への個別対応につながるのを検討したらどうか。 ・サポーターには高校生や短大生などの世代も巻き込んで広がりを検討したら良い。 ・防災訓練や交通安全マナー教室など、行政機関などと連携して活動したらどうか。これからは日本人と外国人と一緒に実施する意義が増してくる。 ・交流活動の中に言語習得のカギがある。外国人と日本人をどんどん混ぜること、受講している外国人も主役になれるような場面設定を考えたらどうか。 ・オンライン教室などの検討については、対面とオンラインそれぞれの強みがあるので、強みを生かしながら検討すると良い。
今後の課題	・日本語教室の実施にあたり、継続してニーズ調査を実施し、多様な学習機会の検討を行う。 ・受講生の実態に即した講義内容の工夫改善を継続的に行う。 ・サポーター養成講座を引き続き開催し、対応力向上や定着に取り組む。 ・外国人採用企業との連携をさらに進化させる。 ・自走化に向けた行政機関等との連携。
今後の予定	・日本語教室の人材確保と育成 ・日本語教室の周知と継続的な開催 ・多文化共生を意識した交流活動 ・他団体等との情報交換 ・地域に対する情報発信 ・企業等との連携と継続的なニーズ把握 ・運営の安定化に向けた活動

本件担当： 一般社団法人 滝川国際交流協会